

# 賀川 ハル

## 同労者としての賀川 ハル

制作：石田 規矩子・柳瀬 啓子・伊藤 潤子



# 「同労者」とは、志を同じくして その実現のために共に歩む人々です

賀川豊彦の同労者として多くの人々が思い浮かびます

- 「同労者」というより「師」ですが、ローガン、マヤス、長尾巻
- 武内 勝・・・留学中の活動の責任者となり、多方面でサポートした
- 鈴木文治・・・共に労働争議を闘い、そして、労働運動を組織した
- 福井捨一・那須善治・平生釦三郎・・・一般の人々の生活を支える購買組合を立ち上げた
- 杉山元次郎・村島帰之(よりゆき)・・・農民救済・農民福音学校に関わった
- 黒川泰一・・・利用しやすい医療をめざして医療組合を共に立ち上げた
- 深田種嗣・・・困窮者の生活に目を向けたセツルメントへの関わり
- 村島帰之・清水安三・・・キリスト教主義にもとづく教育を日本に根付かせた

まだまだ 多くの人があります

# そのような多くの人々と共に、ハルも頼りになる同労者でした

- いうまでもなく、ハルは、賀川豊彦の妻です
- 妻、母としてにとどまらず 同労者として歩んだハルの人生の軌跡に光を当ててみましょう



# 同労者としてのハルの軌跡を、 大きく**3つの時期**に区切ってみてみましょう

- 結婚までのハル
- 結婚生活の中でのハル
- 豊彦を看取った後のハル



# 結婚するまでのハル

ごくごく普通の女性でした

- 数年間にわたり女工をしていました
- 工場での豊彦の説教を聴き、懐疑的だったキリスト教への興味を増していきます
- 信仰は深まり、豊彦の貧民屈での活動を手伝うようになり、結婚をすることになります



# 結婚生活の中でのハル

ところで、豊彦とハルは、実に4つの戦争を経験しています

- 日清戦争……………(1894年～
- 日露戦争……………(1904年～
- 第一次世界大戦・(1914年～
- 日中戦争・第二次世界大戦  
……………(1937・39年～

一生で4つの戦争を経験するということを私たちに想像できるでしょうか

## 結婚生活の中でのハル

4つの戦争があった時代の社会・経済、そして人々の生活はどのような状況だったのでしょうか

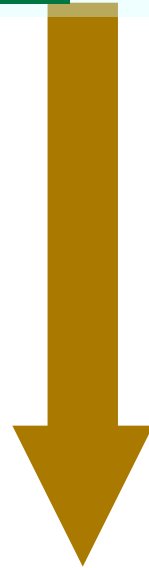
- 戦争前から、農村は困窮し疲弊していました
- 戦争は軍需産業に一時的に好況をもたらします
- 働き手として農村から人々の流入が始まります
- 戦争の終結は不況へとつながり、解雇のため失業者が増加します
- 職もなく、住むところのない人々は、貧しい人の住む所へ集中します スラムの形成です

多くの人々は困窮し、劣悪な生活を強いられます

## 結婚生活の中でのハル

### 極度の貧困と疲弊のもたらすもの

- モラルの低下
- 教育の放棄
- 希望を奪い去る



負のスパイラルを招く

このような状況を目の当たりにして、賀川豊彦は「新川」に身を置き布教活動を始めます



## 結婚生活の中でのハル

- 新川での新婚生活は**困窮し、劣悪な生活を強いられる多くの人々**の真っ只中でのスタートでした
- 覚悟はできていたとはいえ、**刃傷沙汰も日常茶飯事**という生活環境の劣悪さは、現在から想像もできないものだったようです
- 1922年のインタビューでハルは、「**悲哀や嫌悪を感じたことはありませんか**」という問いに  
「時々あります。余りに乱暴なことを言うてくるので 困り果てることもあります。」と答えています

## 結婚生活の中でのハル

時に嫌悪を感じ、困り果てる生活……

…………ハルはどう考え、持ちこたえたのでしょうか

- ハルはインタビューで語ります
- 「…困り果てることもあります。しかし私自身に、やはり愛が足りないのでしょうか。…その人たちは、私たちが同等に見ていないということを、はっきり感じているらしく思われます。…私たちを全然よくは見ていないようです。…そこに、そうならねばならなかった関係に、私たちの愛の足りなさを思って自らに鞭打たずにはおられません…」
- 「脅しを受けても…この先は、(神に)一切を任せ切ることが出来る心決めが、何だかできているように思うのです。」

投げ出してしまいたいとき、ハルをしっかり支えたのは、**神の愛の確信・神への信頼**ではなかったでしょうか

## 結婚生活の中でのハル

- 次々に降りかかってくる困難、戸惑いながらの生活が続きます
- その危機を一つ一つを乗り越えていくことで自信も生まれ役割分担もできてきます
- しっかり、マネジメントもしています

\*近頃は来客が多くて……その方のことは主に伝道主任の方にお任せしています。

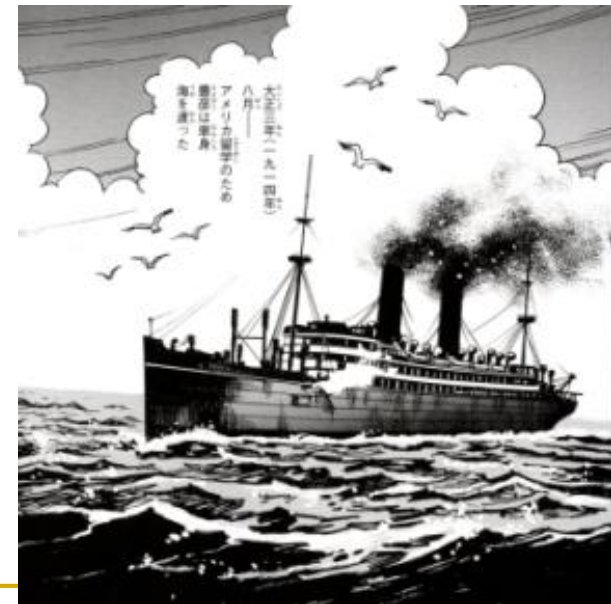
\*貧民・酒飲み・精神病患者……そうした人たちの訪問は、大変時間を取られて何もすることができません。それで近頃は、賀川がその方に時間を割かれないので、多くは私に対応しています。(1922年インタビュー)

結婚生活の中でのハル

豊彦は、渡米・留学して

新たな道の模索をはじめます

- プリンストン大学へ留学します
- 資金集め、そして活動の新しい展開を求めたものと考えられます



# 豊彦は、渡米・留学して 新たな道の模索をはじめます

この留学で、豊彦はニューヨークでの労働者のストライキを目の当たりにして、労働者の生活を守る労働運動の必要性を感じたといわれています



## 結婚生活の中でのハル

豊彦の留学と 時を同じくして  
ハルの2年間余りの大学生活が始まり  
ます

- 日本に残るハルも、共立女子神学校に入学します
- 横浜に居を移しての、2年余に及ぶ勉強です





## 結婚生活の中でのハル

### ハルの大学生活

- 大学入試の準備に、ハルが豊彦の授業を受けたことが日記に記されています 二人の目指すものの大きさ、意気込みが推し量れます
- 必要な学費・生活費など、当時の女子の状況からすれば、考えられないほど恵まれた環境を与えられたこととなります
- 後のハルの生き方に大きく影響を与えたことが推測されます

## 結婚生活の中でのハル

豊彦の活動範囲が広がるに従い

ハルの活動範囲も広がります

- 豊彦 社会運動家としてのスタート
- 救済・救貧から⇒皆が**健康**に「**生活する力**」をつけることを目指します
  - 正当な労働対価を受け取る(労働組合)
  - 正当な価格で物を購入(購買組合)
  - 医療組合(医療制度)
  - 農民組合・農民福音学校
  - 幼児教育





結婚生活の中でのハル

多様な社会運動が実践される中で

ハルの果たした役割は……

- 現在では当然の権利として認められている労働運動、戦争反対の言動なども、当時は**危険思想**としてとらえられていました
- これらを取り締まる治安警察法などの法律がありました



## 結婚生活の中でのハル

# 多様な社会運動が実践される中で

## ハルの果たした役割は……

- 治安警察法違反等により、留置、拘留される人々が出てきます
- 豊彦も逮捕されました
- 留守宅は稼ぎ手の不在、生活の不安でいっぱいです 留置、拘留されている者も家庭が心配です



## 結婚生活の中でのハル

# 多様な社会運動が実践される中で ハルの果たした役割は……



- 「春子夫人は……**罷業職工の家庭を訪問して力づけ官憲の手にかかった職工の家族を慰め、生活を助け、戦いに傷ついた職工を救うために労働争議赤十字団を組織して……**」(1924.4.6.東京朝日新聞)
- **生活をサポートする**役をハルが引き受けたのです
- そのプロセスで、**組織化した女性が力になります。**

# 結婚生活の中でのハル

## ネットワーク作り

- 新婦人協会に**入会**し、演説・・・1921年  
(平塚らいちよう・市川房江・奥むめお)短命に終わる
- 覚醒婦人協会を**設立**・・・1921年(大正10年)  
(長谷川初音らとともに)



新婦人協会の影響受けつつも、それぞれの生活環境の違いから、ハルたちは**働く女性の観点**などを入れた**社会運動をめざす**色彩を帯びた団体をつくることになったようです(男女平等・労働者の観点など)

## 結婚生活の中でのハル

講演に、執筆に ハルの守備範囲は  
広がっていきます

- 講演は、布教というだけでなく「豊彦の妻」にしか語れないエピソードも交え、親しみやすい内容でした
- 執筆も、速筆といわれる豊彦に見劣りすることなく多くの文章を手掛けたといわれています

今でいう「広報担当官」としての役割を  
果たしたといえるでしょう

## 豊彦を看取った後のハル

豊彦の死後も ハルは自立した人間として  
活動を続けます

- 数多くの豊彦の肩書をハルが継承することとなりますが、お飾りではない実力を伴った活動でした
- 豊彦の生前からなされていた数限りない講演・説教・伝道講演は、90歳になっても続けられました



## 豊彦を看取った後のハル

### 感心したこと

- 賀川豊彦の業績の中で、キリスト教界において 被差別部落に関する記述表現に問題があると指摘されています（解説「史料で見ることができるハルの人となり、そして活動」・・・三原容子氏より）
- そのような状況の中、灘神戸生協60周年記念式に出席した折に「貧民心理の研究」の出版をどうすべきかと、嶋田啓一郎氏が触れました

誰もが、疑問に思い、悩んでいたことに  
ハルは、明確に答えます

## 豊彦を看取った後のハル

### 感心したこと

- 出席していた93歳のハルは 即座に毅然たる態度で 答えたといえます

「学問の世界で論じられることならば、ありのままに出版して、正確に批判を受けることが当然のことではありませんか。賀川の この27歳の時の書物は、その後72歳の逝去の日までの長い活動そのものを通じて訂正し、償ってきたことが明らかになることが、大切ではないでしょうか。」

---

嶋田啓一郎「賀川豊彦は私たちにとってに荷を意味するのか」  
「賀川豊彦学会論叢」創刊号 1985年9頁



# まとめ

- 自信と誇りに満ちたハルの言葉は、同労者としてのハルの生涯を象徴し、締め括るものです
- そこからは、豊彦への深い理解と信頼、そして限りない愛が読み取れます
- また、志を同じくして共に歩んできたからこそ 発することのできる言葉です

---

終わりに

ハルは、同労者としての道を歩む中で

「豊彦の妻ハル」から

「一人の自立した 尊敬すべき人間へと成長した」

と言えるのではないのでしょうか



ありがとうございました